

TRICOLOR

大会・公式戦結果

Youth

【県 CY リーグ】

vs 相模原 FC	2-0
vs フットワーククラブ	0-1●
vs Y.S.C.C.	3-2○

Junior Youth

【県 U-13 リーグ】

vs パディー JY	2-5●
------------	------

【県 CJY(U-15)リーグ】

vs 横浜 YMCA	1-1△
------------	------

【南河内マクドナルドカップ少年サッカー大会 (U-15)】

▼グループリーグ

vs 本郷中	6-0
--------	-----

vs サウス JY	0-11●
-----------	-------

▼決勝リーグ

vs サウス JY	1-6●
-----------	------

vs ウィングス鹿沼 SC	2-2△
---------------	------

▼3 位決定戦

vs 明治中	3-0
--------	-----

11 チーム中第 3 位

小 6

【南河内マクドナルドカップ少年サッカー大会(U-12)】

▼グループリーグ

vs 富士見 SSS	0-2●
------------	------

vs 壬生 JSC	1-1△
-----------	------

得失点差により、グループ 2 位で 3-4 位決定戦へ

vs 横川東 FC	0-2●
-----------	------

▼4 位リーグ

vs 上三川 SC	1-0
-----------	-----

vs 岡本 FC	0-2●
----------	------

得失点差により 5-6 位決定戦へ

vs サウス FC	3-0
-----------	-----

32 チーム中第 23 位

【草柳杯】

▼グループリーグ

vs 小松原	1-0
--------	-----

vs 北大和	0-2●
--------	------

▼順位 T

vs ブラックジャガーズ	0-2●
--------------	------

小 4

【三の丸カップ】

▼グループリーグ

vs 横内ファイヤーズ	3-0
-------------	-----

vs 大道 SC	0-6●
----------	------

vs 三の丸 FC	1-2●
-----------	------

▼5 位決定戦

vs 早川 SC	4-1○
----------	------

Papas

☆Comp

【県議長杯】

▼2 回戦

vs 緑ヶ丘	3-1○
--------	------

▼3 回戦

vs 湘南ベガサス	5-2○
-----------	------

今、グラウンドでは・・・

Top

【謹賀新年】

Top チームは 12 月はほとんど試合がありませんでした。しかし、練習は来季に向けてハードに行っています。特に最近是对人(1 対 2、2 対 3 など)の練習を多く取り入れており、守備の面でボールを厳しく奪いに行くことを意識させるようにしています。相手が多いからといって、相手との距離を置いてしまうと自由にボールを回されてしまいます。人数が多い攻撃側はボールを簡単にさばいて、ボールを奪われないようにゴールへ向かうという意識を持たせるようにしています。基本的なことですが、サッカーはある意味ボールの奪い合いです。厳しくボールを奪いに行く意識を持てれば、きっと来期につながるはずです。

【Happy Football Day 開催】

12 月 20 日に港北小学校において小学生との交流イベント「Happy Football Day 2009」を開催し、好天にも恵まれ多くの方々にご参加いただきました。小学生チーム対 Top チームの試合では、各チーム気合の入りが違ったようで、何とか Top の選手からボールを奪おうとひたすらボールを追いかける姿や、高学年では見事なパスワークやトップ選手顔負けのフェイントで見事にゴールを奪い大喜びする



姿も見られました。Top チームはかながわクラブの最高カテゴリーとして、さらに小学生や他のカテゴリーとの交流を増やしていきたいもともとサッカーの面白さや楽しさを伝えるとともに、将来は Top チームの一員としてサッカーを続けてもらえることを願っております。(中本 洋一)

★Top チーム公式 Web サイト

<http://www.kanagawaclub.com/topteam/>

【選手紹介⑬】



Top チーム選手紹介第16回目は新年にふさわしく田村恵久男 Top チーム監督のご紹介です。

田村監督は愛知県岡崎城西高校出身、高校時代は全国高校選手権でベスト4、大会の優秀選手にも選ばれました。愛知学院大学時代は元日本代表 GK 松永成立氏とともに活躍し、卒業後日産自動車サッカー部(現横浜 F・マリノス)に入団、当時の日本リーグ(現在の J リーグ)で日産サッカー部の黄金時代を支えました。

2009年4月からかながわクラブ Top チームの監督に就任、就任初年度見事県リーグ3位という結果を出しました。普段は笑顔で選手たちとのコミュニケーションをとりませんが、練習や試合では選手たちに厳しい一言が出る時もあります。来季に向けて練習を通しさらに上位にいけるようにチーム作りをしています。来期の田村監督の采配に注目です。

★田村監督からのコメント

明けましておめでとうございます。昨シーズン開幕直前から Top チームを預り、県社会人リーグでは最終戦まで優勝を争いましたが、結果は悔しい3位で終了致しました。応援を頂いたクラブ員の皆様、最終戦まで諦めずに戦ってくれた選手、監督として迎え入れてくださったスタッフ、トレーニング(TR)・GAME等に関わった全ての皆様へこの場を借りて感謝申し上げます。

昨シーズンの振り返りは、12月号の中で中本GMよりレポートがありましたので私からは、Top チームの課題等について述べたいと思います。

【チーム】

下部組織を持つクラブのトップチームとして子供たちには「夢」を、サポーターには「感動と共感」を与えられる「魅力溢れるチーム」にすることが大切なことだと思っています。

県リーグで優勝するには、関東リーグ2部昇格を目標に、夢はその上に持つ事が大切です。各選手には TR・GAME だけではなくあらゆる面で自覚を持ちチャレンジすることを求めます。

優勝が懸かった数試合を勝ちきれなかった原因の一つはそこにあったのではないかと考えています。

【目標達成の方策】

1.意識改革＝常にポジティブな姿勢

ポジションに関係なく「相手ボールは自ら奪う」「保持したボールは失わない」意識の徹底

2.個人スキルの向上

常に「観る」＝ボール・ゴール・人、古いワードですが、「3S」＝スピード、スタミナ、スピリット、「3B」＝ボールコントロール、ボディバランス、フレイムの向上
サッカーの本質は「ボールの奪い合い」であり、1対1の局面で始まり11対11がどのように連動・変化し得点するのか、またはどのように修正し失点を防ぐのかそのプロセス(駆け引き)が重要です。要は、サッカーの本質を理解し、正しいスキルの向上を図ることが重要です。

選手とチームには、「水」になって欲しいと思っています。環境(天候・時間・相手・グラウンド)の変化に対応(液体・固体・気体)でき、「水」としての本質は失わず、相手の弱いところを破壊する意味があります。

【お願い】

サポーターの皆様には、試合会場だけではなく、練習会場へも足を運んで頂き、選手、私も含め刺激して頂けるとありがたいと思っています。冒頭で触れましたが、「感動と共感を与えられるチーム」作りにチャレンジいたします。今後ともご支援よろしくお願い申し上げます。

Youth

3年生最後の公式戦、県クラブユースリーグが終わりました。今の3年生は上の学年の人数が少なかったので1年生から公式戦に出場していた選手が多く、人数的にも余裕がなかったため、特に夏は連戦連敗の日々が続きました。それでも腐ることなく、よく頑張ってくれました。3年生になり、ようやく少しずつ勝てるようになり、なんとか県リーグは4勝3敗と勝ち越して終わることができました。

しかし、もう少し時間をもらえるならもう少し強くできたし、もう一つ上のステージに進むことができたのに、などと指導者の風上にもおけないようなことを考えてしまいます。続きは Top チームに委ねたいと思います。

1・2年生はいよいよ自分たちの出番です。3年生の陰に隠れてなかなか出番がなかった選手がたくさんいますが、これからは一人ひとりがチームの一員であることの責任と自覚を持って活動に臨んでほしいと思います。4月までに、まずは90分戦える体力をつけていきましょう。

(内田 佳彦)

Junior Youth

ジュニアユースでは12月に1泊2日の栃木遠征を行い、いよいよ新チーム(現1・2年生)として本格的に始動しました。今まで3年生に頼っていた部分が大きかったため、チームとして戦えるようになるまではまだまだ時間がかかるなという印象です。

今後のジュニアユースは年明けの3連休でJ-VILLAGE遠征を行い、その後1~3月にかけて、中2以下で行う「県U-15リーグ」に参加し、新チームとしてのチーム作り・強化を行っていきます。

なお、「県U-15リーグ」に参加するため、県U-13リーグ3rdステージには参加しません。また、現在受験期間で中断している中3以下で行う「県CJY(U-15)リーグ」は2月末ころから再開予定です。

(二木 昭)

小 6

【栃木遠征】

高田の怒りから3試合ベンチ入りせず、

子供たちだけで試合をさせ、栃木遠征はスタートしました。

対戦成績はたいしたことはありませんが、グラウンド内外において、「自分で考え・決断・行動」という第一目標は浸透してきました。

自発的に本部やホテルのスタッフに挨拶をしたり、2日目に初日のグラウンドには戻らないことを知ると、「最後に挨拶してくればよかったな～」と発言するなど、人間的にもかなり成長しています。

夕食時には、ほとんどの選手が食事中に「もう食べられない」と言っていたのが、突然、ご飯をおかわり始めたのはビックリしました。

帰りのバスでは「楽しかった」との感想を聞き、栃木県の一部でしか利用できないマクドナルドのチケットをもらったため、ハンバーガーとポテトを交換して栃木遠征は終了しました。

【シーガルス交流戦】

今回で 11 回目を数える「横須賀シーガルスとの交流戦」。

試合前のミーティングにおいて、「今までのように育成のためのサッカーではなく、勝つためのサッカーをする」と話し、送り出しました。

そのかいあってか、3-0 の勝利で年内の活動を無事終了いたしました。

1月11日には県大会が始まります。春に行われた全国大会予選と同じく、「負ければ終わり」のトーナメント方式です。シーガルスとの交流戦でリハーサルは完了しています。「勝つためのサッカー」を知ることでも大事な育成だと思えます。すぐには理解することは難しいですが、交流戦でなんとなく理解できたかとは思えます。一試合でも多く勝利し、一試合でも多く試合をして、「勝つためのサッカー」を理解していきましょう。

「テクニクはあるが、サッカーの下手な日本人」と言われたいように。

(高田 成典)

小 5

【市長杯に向けて】

1月16日より、市長杯がスタートいたします。この学年となつてからは、事実上、

初めての公式戦と言えるでしょう。選手たちには持っている力を十分に発揮して、楽しいサッカーを目指すことはもちろんのこと、結果についてもこだわってもらいたいと思っています。

今大会はトーナメント形式で実施されるため、あらかじめメンバーを選抜して臨む予定です。メンバーの選考については、日頃の取り組み方(出席回数・戦う姿勢・頑張り)を最重要視し、約半数の 15 名程度に絞り込もうと思っています。もちろん、メンバーを固定するつもりはなく、大会ごとに入れ替えを行なうことになるでしょう。選手同士、切磋琢磨して、ぜひコーチを悩ませてほしいものです。

(鈴木 章弘)

小 4

あけましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

【正しいスパイクの選び方】

先日、サッカーショップに行ったときに足のサイズ・甲の高さ・足の幅・指の長さを測れる測定器を試してみました。(計ってみたら左右で5ミリ差がありました。)そのデータを参考にして店員さんが足にあったスパイク・フットサルシューズ・メーカーを紹介してくれました。デザインがカッコイイスパイクや有名選手と同じモデルのスパイクが目がいきがちですが、自分の足に合ったスパイクを選ぶことでパフォーマンスの向上につながるので一度正式な足のサイズを測ることをお勧めします。(ちなみに僕は、幅が広いスパイク・は足に合わないみたいです。)

【5年生になる前に】

4年生として活動するのが後少しくなってきました。国際チビっ子後から「良い判断をする」というテーマで練習を進めています。ゲームやミニゲームや3vs2 の練習を通してボールをもらう前の準備・ボールをもらう前の動き・ボールをもらってから動き・ボールを取られた時の動きを中心にメニューを組んでいます。

中々難しいテーマのため、ゲームを中断してプレー解説を行ったりしながら練習を行っています。難しい課題ですが実践形式の練習でコツをつかめれば必ず試合

でよいプレーが出来るので選手たちには頑張って練習に打ち込んでもらいたいと思います。

(丸山 祐人)

小 3

【新年あけましておめでとうございます！】

小学3年生としての年度末まで残り3ヶ月、引き続き楽しく活動していきたいと思っています。

【親子サッカー】

12/23 には多くの保護者の皆様のご参加ありがとうございました。今回もウォーミングアップを子供たちと一緒にさせていただきましたが、色々な動きの中でバランス感覚などを身につけていることも感じていただけたかと思えます。特にコースロープを跨ぐステップでは、傍で見てみると「何故できないの?」と思われる動きが実は意外と難しいことに気がつくたことでした。うまく出来たお母さん・お父さんは子供たちに自慢して下さい。出来なかった方はこっそり練習してください(笑)

また、学年も上がってきたことから子供たちとのプレーは結構な運動量だったかと思えます。繰り返しますが、これが試合になり、スピードも激しさも増し、更に体も大きくなっていくことを考えていただくと、如何に子供たちが厳しい中でプレーしているかを想像いただけたかと思えます。親子サッカーは楽しむ反面、その部分も保護者の皆様を知っていただくよい機会ですので、引き続きのご参加を是非々々お願いいたします。

【寒くなってきました】

子供たちにも伝えていますが、「良い状態でサッカーを行う」ために必要な準備を自分自身ですることを身につけてもらいたいと思います。寒風の中半袖シャツだけでは凍えます→中に長袖シャツがあれば保温されます、手が冷たいと自然とポケットに手がいきます→手袋があれば暖かいです。良い準備をすることが良いプレーに繋がることを繰り返しお伝えいただき、「必要な準備を自分で行う」よう保護者の皆様のサポートをお願いいたします。

(小野 津春)

幼児・小1・小2

【小学生・中学生の暴力増加】

全国の小、中、高が 2008 年度に確認した児童生徒の暴力行為は 59,618 件と、前年度比で 13%増、7,000 件近く増えて過去最多を更新したことが、文部科学省の「問題行動調査」で分かりました。学校別では小学校で 24%増、中学校で 16%増と著しく、逆に高校では 3%減となっています。

また、些細な理由で凶悪犯罪に走る若年層の増加も近年の特色と言えるでしょう。「キレル若者」という言葉が流行ったのも記憶に新しいことです。最近のこうした少年事件や若者の事件を見ていると、動機の単純な点でも犯行の残忍さの点でも、犯行後の反省や謝罪感情がまるで欠落している点でも、これまででは全く考えられないものになっています。

【柳田邦男氏の警鐘】

こうした事件の原因に関して、柳田邦男氏はおよそ十年前から、ゲームやネットが子どもたちの人格形成に問題をもちあらしつとると警鐘を鳴らしています。時の総理大臣小泉純一郎氏に対しても、ネットの匿名性やゲーム・テレビなどの映像刺激が幼い子どもたちの脳を破壊しているので、景気対策よりもゲームやネットの野放し状態を改善して欲しいと手紙を出しています。

柳田氏はその手紙の中で、このまま放置すれば、この国は脳や心の壊れた人格異常者が五年ないし十年刻みで倍増してゆき、いわれなき誹謗・中傷のたれ流しや異常な凶悪犯罪の発生に歯止めがきかなくなりますます述べています。

詳しくは、柳田邦男著『壊れる日本人～ケータイ・ネット依存症への告別～』『石に言葉を教える～壊れる日本人への処方箋～』『人の痛みを感じる国家』(全て新潮社)などをお読みいただければと思います。

【脳内汚染】

柳田氏は『人の痛みを感じる国家』の中で、これまではなかなか科学的に説明されていなかったゲームと子どもの脳の関

係を説明する画期的な著作として精神科医・岡田尊司氏の著作『脳内汚染』(文藝春秋)を紹介しています。岡田氏は『脳内汚染』の中で、ゲームが子どもの発達途上の脳にもたらす中毒症状は麻薬の場合と変わらないことを、脳科学の最近の成果や事件を起こした少年たちの精神分析結果やゲーム漬けの子どもたちの実態調査をもとに指摘して、子どもにクリスマスプレゼントとしてゲームソフトを贈るのは、LSD やマリファナを贈るに等しいか、それ以上に危険なことだと警告しています。

【ゲームソフトは麻薬！？】

岡田氏はその根拠に関して概ね次のように説明しています。

「前頭葉の機能は、生まれつき本能のように備わっているのではない。乳幼児期から児童期、青年期と続く体験の積み重ねによって、後天的に機能を獲得していくのだ。それだからこそ、ゲーム、ネット、テレビなどの刺激にたえずさらされると、脳の機能が強い影響を受けることになる。

その具体的なメカニズムは、こうだ。ゲームの場合、敵との戦いでやるかやられるかという状況に置かれると、交感神経から心臓をドキドキさせるアドレナリンが体内の血液中に大量に放出される。そして必死の戦いの後に敵を倒すと、達成感とともに気分を高揚させるドーパミンが脳内にドッと放出される。脳はこのようなドキドキする興奮と強い達成感を体験すると、もう一度その興奮と達成感を味わいたいと欲することになる。そのことが繰り返されていくと、同じ刺激では興奮と達成感をあまり感じられなくなり、もっと強い刺激を求めようになる。麻薬中毒の習慣性と同じ反応が起こるのだ。

ゲーム製作者は、ゲーマー(ゲームで遊ぶ人)ができるだけアドレナリンやドーパミンを放出させるような作品を製作するように、日夜知恵を絞っている。」

かくて、岡田氏は次のように言い切ります。

「われわれは、毒性を持ったものというのは物質的なものだという先入観を持っている。だが、それはもう過去の時代の話である。高度情報化社会においては、情報

というデジタル信号も、物質的なものと同等以上に毒性をもちうるのである。>

【情報に対して脳は無防備】

情報の毒性には、更に恐るべきことがあります。物質の毒であれば、血液に入っても、血液脳関門(ブラッド・ブレイン・バリアー)と呼ばれる組織(いわば濾過膜)によって、脳内に入るのを防ぎ、脳の神経細胞を守る仕掛けがあります。しかし、情報は信号であって物質ではないので、目や耳から入ったら、何のバリアーもなく、ストレートに脳を直撃することになるのです。

こうして脳が情報の毒性に侵されると子どもの心には①我慢しようという意思がなくなる。②行動をする際にどちらにしようかなどと迷ったりする緊張感がない。③他者に対する共感性が欠ける。といった変化が見られるようになるのです。

無防備な子どもたちの脳の成長に必要なのは、ゲームで遊ぶときに得られる映像刺激ではなく、人と人の接触を介して感じる痛みや温もりであり、バーチャルな世界の疑似体験ではなく実際の体験なのではないでしょうか。

【オシム氏の言葉】

折りしも目にした toto の CM の中で前日本代表監督のオシム氏が次のように言っています。

スポーツは人生の学校です。

集団での規律、お互いの尊重。人生で必要な行動規範がスポーツにはあります。

人生にはさまざまな障害があります。それらを克服する力をスポーツは養ってくれます。社会で必要なさまざまな力をスポーツは教えてくれるのです。

たとえば正義感や責任感、そして正しい判断力や忍耐力などです。

スポーツを育てていくこと、それは人が社会で生きる力を育てていくことなのです。

スポーツは育てるものだと思います。

このオシム氏の言葉の「スポーツ」をそっくりそのまま「サッカー」に置き換えてもよいかと思えます。

【ゲームをするよりスポーツ、特にサッカーを！？】

チームとして戦うスポーツであるサッカーでは個々の我儘は禁物です。集団の中での規律を守らなければなりません。また、一人ではサッカーはできませんから同じチームの仲間のみならず相手チームの選手や審判までも尊重することが求められるのです。

試合では一個のボールしかありませんので、ほとんどの時間をボールのないところでのプレー、一見無駄と思われるようなプレーに費やします。しかし、それはチームの中で自らに与えられた使命ですから献身的に続けることとなります。規律のみならず忍耐力も身につきます。しかもサッカーのルールは 17 条しかありませんので、その他想定外のプレーに関しては反スポーツ的であるかどうかによって裁かれます。自らが正しいかどうかを判断しながらプレーをすることになります。こうしたプレーを通じて責任感や正義感を身につけていくのです。

【何よりも考えることが最優先！】

先月も書きましたが、サッカーでは選手個々の『考えること』が重視されます。指導者の指示を待ってプレーするのではなく、瞬時に自分で考え、プレーを選択し、行動に移していくことがサッカーの試合中には繰り返されます。こうした自ら考え、決断し、行動することはオシム氏の言葉を借りるまでもなく「生きる力」に他なりません。大袈裟かもしれませんが、かながわクラブではサッカーを通じて「生きる力」を身につけさせているとも言えるのです。

寒さが厳しくなると家の中でゲームに興じる時間が多くなることとは思います。しかし、子どもたちの脳の発達にとって大切なのは映像的な刺激ではなく、サッカーボールに数多く触れることによる脳への刺激や試行錯誤だということをご理解いただき、子どもたちに屋外でサッカーをするように促していただければと思います。

【最後に…】

新年の挨拶が最後になってしまいました。今年も子どもたちと楽しくサッカーができればと思っています。今年もこうした指導方針をご理解いただき、ご協力のほど宜しくお願いいたします。

また、度々のお願いで恐縮ですが、子どもたちが思い切りサッカーに集中できるように、活動時の防寒対策(手袋、ネックウォーマー、ユニフォームの下に長袖のシャツを着用、温かい飲み物の準備など)を十分に講じていただきたいと思います。行き帰りの長袖、長ズボンなどの上着着用は言うまでもありませんが…。

(佐藤 敏明)

Papas

【謹賀新年】

新年明けましておめでとうございます。本年も怪我のない楽しい壮年サッカーとなるようメンバーとスタッフとみんなで力を合わせていきたいと思います。

【シニアリーグ新体制】

県シニアリーグの本年 4 月からの新年度の参加登録は、大変早くて前年の 12 月末日までです。この登録事務はこれまで 2 チームとも茅野が担当していたのですが、なかなかキメ細かい対応ができないことから、Rec は浜野が Comp は中山が各々担当しましたが、メンバーの協力を得て、円滑に登録事務が行えました。ご協力ありがとうございました。

シニアリーグではなく Papas そのものへの年度更新は、昨年度から自動更新いたしましたので、継続参加される方は手続きは不要です。但し、連絡先などに変更がある場合は事務局にメール、ファックスなどでご連絡をお願いします。

横浜市シニア委員会が主催する交歓試合及び市マスターズトーナメントに参加するいわゆるチーム Over40 への参加は Rec と Comp に参加された方は追加費用なしに自動的にそのまま参加メンバーとなります。これに加えて新年度から Rec と Comp には参加できないが、Over40 のみ参加したいとの申し出があり、参加費用を含め現在検討中です。

また、県シニア委員会主催のマスターズリーグには、本年度は参加しませんのでご承知願います。また、Over50 のチームを結成するのももう少し先になります。ご了承願います。(茅野 英一)

ヨーガ

【今年もよろしくお祈りします。】

新年明けましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

さてさて、皆様はおせち料理を作られるのでしょうか？

私は一部だけ作ります。

毎年、元旦は実家(近いのです)に行つて過ごすため、母や妹と分担して作ることにしているのです。

いつも私の担当は「煮しめ」や「たたきごぼう」「紅白なます」が主。

あとは、その年の気分で作ります。

今年の気分は、なんとといっても「横浜橋」。

というわけで、年末に橋で買い込んだ塊肉で「チャーシュー」を作り、その付けダレで「味つき卵」を作り・・・と準備をしてきました。

でも、もう一声華やかさが欲しいところです。

そこで、年末も 31 日に行つてきました！横浜橋！

いつもの通りが人でいっぱいです。

通いつけの K 水産は、さらに人であふれていました。

(中略、詳しくはかながわクラブ HP→ヨーガ→ブログをご覧ください。)

押し合いへし合い状態にめげず、豪華マグロを格安でゲットしました。

で、味はどうだったか？ですよね？ひとことと言うと

「！！！！！」

です。(これひとことになっているのかな？)

マグロってこんなに美味しいお魚だったんだ…。

今年からはさらにマグロの漁獲制限が厳しくなるようです。

今のうちに食べておきましょう。

我が家のお正月料理に見事に華を添えてくれた横浜橋でした。(伊藤 玲子)

【正月のスポーツ観戦】

■元日:サッカー天皇杯決勝戦

久しぶりに見ていて楽しい試合でした。ガンバのサッカーは面白いですね。しかも遠藤が秀逸のでき。アジア最優秀選手の実力を見せつけてくれました。

■2日:箱根駅伝

4区まではわが母校が首位。おおお！69年ぶりの優勝か？と思ったのもそこまで…。

しかし、東洋大の柏原君と日大のダニエル君には拍手喝采でした。

■2日:大学ラグビー準決勝

このところ母校ラグビー部も優勝から遠ざかり、すっかり早稲田の陰に隠れてしまいさみしい限り。今年こそは！と思って応援したのですが、重戦車軍団は何処へ…。

■2日:高校サッカー選手権

地元の武相高校が初出場。監督の大友先生と私は同じ学年です。彼は末吉中一日大高校。高2の時に選手権に出場しましたが、小峯監督(のちに国見を強豪にしたあの方)率いる島原商業に2-2からPK戦にて敗退。当時の日大は本当に強く、FWの尾崎さんはのちに奥寺さんに次いで日本人二人目のドイツプロ選手。キャプテンでDFの石井さんは日産自動車サッカー部(現在はマリノスのフロント)。大友先生自身も読売クラブ(現ヴェルディ)でプレーしていました。

当時は私の高校ととっても仲が良かったため、毎月のように練習試合を行い、必ず毎回コテンパンにされていました。

武相高校に赴任後は2002年のW杯を手伝ってくれ、その後は国体で神奈川県選抜を優勝させたりと、指導者としての力を発揮してきました。ものすごく勉強熱心な方で、いろいろなグラウンドでお目にかかります。どうしてこんなところにいるのかと聞くと、他の人の指導を見習うためと言われました。

対戦相手の宮崎県代表日章学園の早稲田先生は一学年先輩にあたります。帝京高校のエースとして3年生の時に全国制覇。のちに日本代表となる宮内さんや

金子さん、1年生では川添さんや名取さんといったそうそうたる顔ぶれでした。

当時の帝京高校と一度だけ試合をしたことがあります。もちろん私は応援ですが…。先に点を取ったのですが、それで相手のやる気に火をつけてしまい、2-4でやられた記憶があります。

そんな両名が監督として対戦するので楽しみでした。が、やはり相手の方が経験も力もありました。しかし、間違いなく今回の選手権出場は、彼にも、チームにも大きな糧となったに違いありません。これからの武相高校に期待しましょう。

もちろん、かながわクラブのユースはもっと期待できますよ！(内田 佳彦)